

世界を凌駕する華人の魔の手

世界の人口は80億人に達し、国別の人口比率は中国とインドが首位を争う状態にあり世界中の各々18%を占めている(図1)。

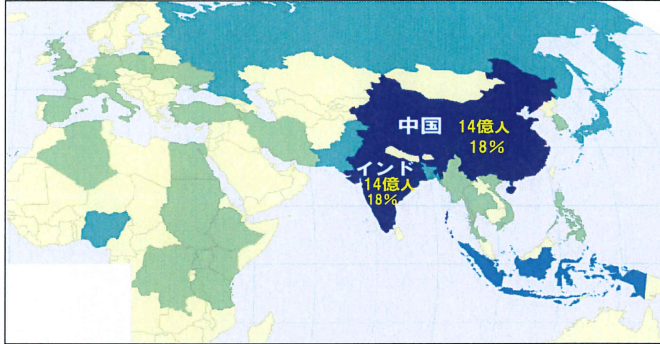


図1. 中国とインドの人口と比率

中国とインドに人口が多いのは、長江・黄河やガンジス川があり、数千年もの歴史をもつ古代文明の発祥地で大規模農業により安定した食糧供給が可能だったためである(図2)。



図2. 古代文明と大河

16世紀以降、ヨーロッパ勢力が交易目的でアジアに進出すると、彼らと現地人の間を仲介し交易に従事する人々が現れた。これらの海外に住む中国人とその子孫は「華人」と呼ばれている。

18世紀以降、イギリスがインドで生産した「アヘン」を中国「清」に輸出し清がアヘンの蔓延を防いだことに起因した「アヘン戦争」以降、国内での混乱(図3)の影響で多くの中国人が東南アジアなどに渡った。

その大部分が広東・福建など中国南部出身者で



図3. アヘンの商売人とアヘンを吸う中国人

各々の方言ごとにコミュニティを作り、労働者としてだけでなく現地で商売を始める人々も多く、各地で「チャイナタウン(華人街)」が発達した。

第二次世界大戦後、1949年に「中華人民共和国」が成立し、海外で暮らす“華人”は現地に定住することを選択した。

その後、華人の海外移住は中断されたが1978年以降、留学や私的な出国も可能となり、過去の移民とは違う高学歴や熟練労働者も増加、移住目的も多様化して再び世界各地に華人が押し寄せるようになった。

「華人街」には共通した特徴がある。

大きな華人街があるのは、長崎・横浜・神戸などの港町であるが、内陸に移り住む人達もいる。

「チャイナタウン」が観光地化する場合は、

- ①華人達が集住し始める
- ②現地の華人向けの商売が始まる
- ③現地人向けの商売や観光地化していく

という段階を経ることが多く、広東・福建といった華人の特色の強い街から北京や上海といった“中国文化”を打ち出す街になる傾向がある(図4)。



図4. チャイナタウン

華人は家族・親族・同郷などの繋がりを非常に重視するため、親族や同郷出身者を呼び寄せコミュニティを形成する。

移住先により華人の出身地も大きく異なる。

山東省は韓国系、福建省はフィリピン・インドネシア・シンガポール系、広東省はタイ・ベトナム系、また出身地ごとに職種が異なり、喫茶店は海南人、農業は福州人・広東人・客家人、貿易は福建人・潮州人の傾向がある(図5)。

日本の中華街は「横浜」「神戸南京町」「長崎新地」で横浜と神戸は幕末の開国による港町で、欧米の貿易商人の通訳などの広東省出身者が居住していた。

長崎は鎖国時代にオランダと中国に開港された

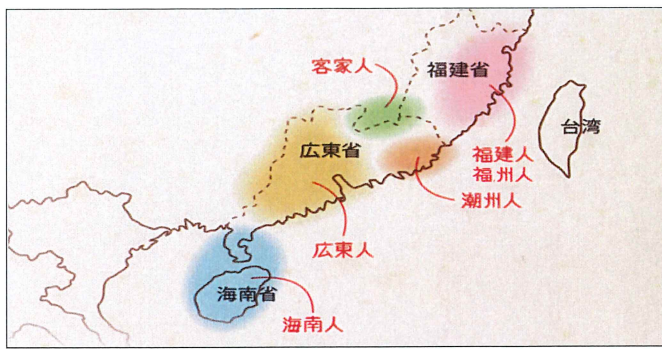


図5. 華人の出身地

貿易港で、唐人屋敷に住み鎖国終了後、人工島に移り住んだのが現在の長崎中華街である（図6）。

3つの中華街には「牌楼」（図7）という門があり主に日本人を対象とした観光地になっている。

シンガポールは国民の3/4が華人で、1819年に東インド会社が獲得し、国際貿易港として繁栄した際華人が重要な役割を果たし、そこに居住した華人の集住地がシンガポールの華人街である。



図6. 日本三大中華街地

図7. 牌楼

マレーシアの1/4は華人で、15世紀の永楽帝時代に鄭和の南海遠征でマラッカが拠点となり中継貿易で栄え、マラッカとシンガポールはイギリスの植民地となり福建人が重要な役割を果たしていた（図8）。

タイは昔から中国との朝貢貿易でアユタヤを中心に華人が定住し、18世紀にトリンブリー朝を開いた潮州移民が父の「タークシン王」、ラタナーコーシン朝でも中国出身の女性も王族入りしている（図9）。

経済においては大企業や大手銀行では華人系が大部分で、バンコクは潮州系華人街である。

インドネシアも17世紀末には清の海禁政策の緩和でジャワに大量の労働者が押し寄せ、1000万人以上の華人を抱える世界最大の華人社会であるが、人口の4%と華人は少数派集団である。



図8. 永楽帝と鄭和

図9. タークシン王



図10. アオザイとチャイナドレス

フィリピンの華人街はキリスト教であり道教の寺院もないため華人街の印象は強くない。

ベトナムと中国は元々漢字文化圏で、言葉の響きや民族衣装「アオザイ」と「チャイナドレス」も類似しているため、ベトナムは昔“中国”だったといわれている（図10）。

東南アジアにはヨーロッパにあった広大な地域を統一する強大な権力の“帝国”は存在せず、山脈が多く生活圏が分断され、海を挟んで大小様々な島であったため、統一された国家が誕生し難かった。

「中華」は“世界の中心に位置する文明”を指すが、「中華民国」は1912～1949年まで中国大陆にあつて統治されていたが、毛沢東が1949年に「中華人民共和国」を宣言して中国共産党体制となり、中華民国は「台湾」に退き台北で統治された（図11）。



図11. 中華民国と台湾

「一帯一路構想」は“陸”と“海”のシルクロードを鉄道・港湾などのインフラ整備によって地域の経済成長基盤を構築する目的であるが、これは華人の“黒船”そのものであり、中国の援助により将来、華人に地域が統一化されて世界一の大国になって世界が“中華思想化”される可能性がある（図12）。

既に貴方の隣に華人がいるのかもしれない。



図12. 一帯一路構想と黒船